

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒

元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

生藤山・陣馬山に花を愛でる

花の便りに誘われ4月中旬、生藤山(990
m)・陣馬山(855m)に出かけた。

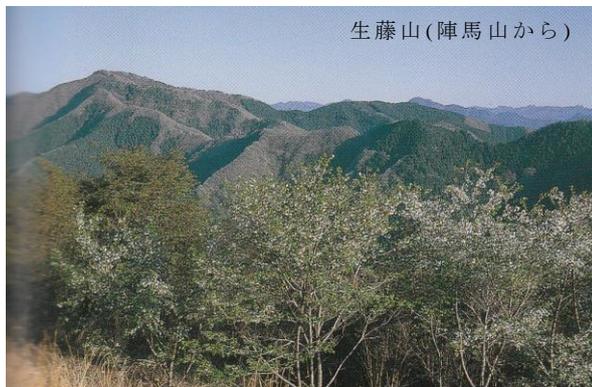


陣馬山(登里から)

9時、中央線・上野原駅からのバスを石楯尾神社で下り、集落の中を緩やかに登って行く。あちこちの庭先でソメイヨシノやミツバツツジが鮮やかに色を競う。集落が尽き山道に入ると、足元一面にコスミレの群生が迎えてくれた。

ジグザグの急登を終えて10時、佐野川峠に出ると緩やかな尾根道に変わる。スギ林の中、所々にヤマザクラがつつまじやかに咲いて見えた。10時半甘草水。満開の桜に囲まれた広場に大勢の人がカメラを構えている。残念ながら、春ガスミで眺望は今一というところだった。

ここから木段の登りちょっとで三国山。三国山から若干下って主稜線に合流し、岩



生藤山(陣馬山から)

尾根を一登りして11時半、生藤山頂に到着した。しかし折角の山頂もモヤで展望なく、先を急いで11時40分茅丸

(1019m)到着。春ウララの本日最高点に座りこんで弁当を広げた。

茅丸からは連行峰、醍醐丸、高岩山と緩やかな登り下りを繰り返し、13時半和田峠着。大勢の人で賑わう茶店がある。和田峠からは駅の階段のような立派な木段を登り、14時陣馬山山頂に到着した。

広々とした山頂にはシンボルの白馬像が立ち、山



白馬像

頂を埋め尽くす桜は今が満開である。まさに春本番、わが世の春を満喫した。

下山は栃谷尾根を下った。スギ林の中、広い尾根道ののどかな下りである。30分程で道は農道になり、山腹にポツンポツンと家が立つ栃谷集落を抜ける。道の所々に各家毎の独立した墓所があり、いずこも墓を守るように植えられた桜とツツジが見事な花を咲かせていた。

15時半、お待ちかねの陣馬の湯「陣溪園」に着き入浴。湯船の目の前に広がる桜、ツツジ、ヤマブキの満艦飾に、この世の極楽を見る思いだった。



陣馬の湯の桜